

<編集後記>

初年次教育学会誌の第3巻第1号が完成いたしました。無事に会員の皆様に本号をお届けすることができ、安堵しております。

昨年の第2巻第1号の編集時には、投稿された研究論文・事例研究論文合わせて18編のうち、掲載可と判断されたのは研究論文2編、事例研究論文4編でした。本号ではそれよりもかなり数が減ってしまったものの、合わせて7編の投稿があり、ご覧の通り、最終的には研究論文2編、事例研究論文2編を掲載することができました。数の上では決して多くはない掲載論文数ですが、いずれの論文に対しても、編集委員会として思い入れのあるものとなりました。審査の過程では、多くの会員の方に査読のご協力をいただきました。投稿者の方々にも、編集委員会からの再三にわたる修正の要求に辛抱強くおつきあいいただきました。編集委員一同も、査読者からのコメントを参照しつつ投稿者への通知文を思案し、修正された論文に対する掲載の可否を議論をしながら、会員の皆様および投稿者の方たちにとって、少しでもよい形で論文を掲載できるよう、努力を重ねてきました。また、第2回大会の大会関係論文の執筆者の皆様には、原稿依頼の時期がかなり遅くなってしまい、無理を聞いていただくことになってしまいましたが、迅速に原稿を作成していただき編集スケジュールにも遅延が生じることなく作業を進めることができました。ご協力いただき、発行を支えてくださったすべての皆様に、編集委員長としてお礼申し上げます。

実は、前2巻の編集委員長であった川嶋太津夫会員に代わり、本号からは藤田が編集委員長を務めております。2009年度は在外研究でカナダに滞在しており、3月末に帰国してからすぐに編集作業に関わりました。編集委員としても一年間のブランクがあり、いろいろとわからないことや忘れていることが多く、他の編集委員の皆様には数々の不手際によってご迷惑をおかけしてしまいました。それでも暖かくサポートしていただいたおかげで、何とか編集委員長としての最初の任を果たすことができ、編集委員の皆様に変感謝しております。

本学会誌もこれで第3巻を数えますが、次号は4年目、大学生でいえば卒業年次にあたります。これまでの経験と問題意識を総動員し、よりよい学会誌を編集したいと、編集委員会一同、既に次号の編集に向けて意欲を高めています。

質・量ともに充実した学会誌を発行するためには、やはり多くの会員の方からの論文の投稿が不可欠だと存じます。第3回大会でも多くの優れた研究発表がなされていたことですし、皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしている次第です。引き続きよろしく願い申し上げます。

編集委員会を代表して 藤田哲也